

# 末梢神経ラジオ波焼灼療法、体外衝撃波疼痛治療術、平衡機能検査 アンケート調査結果

社会保険等検討委員会へのアンケート調査について

## 【背景】

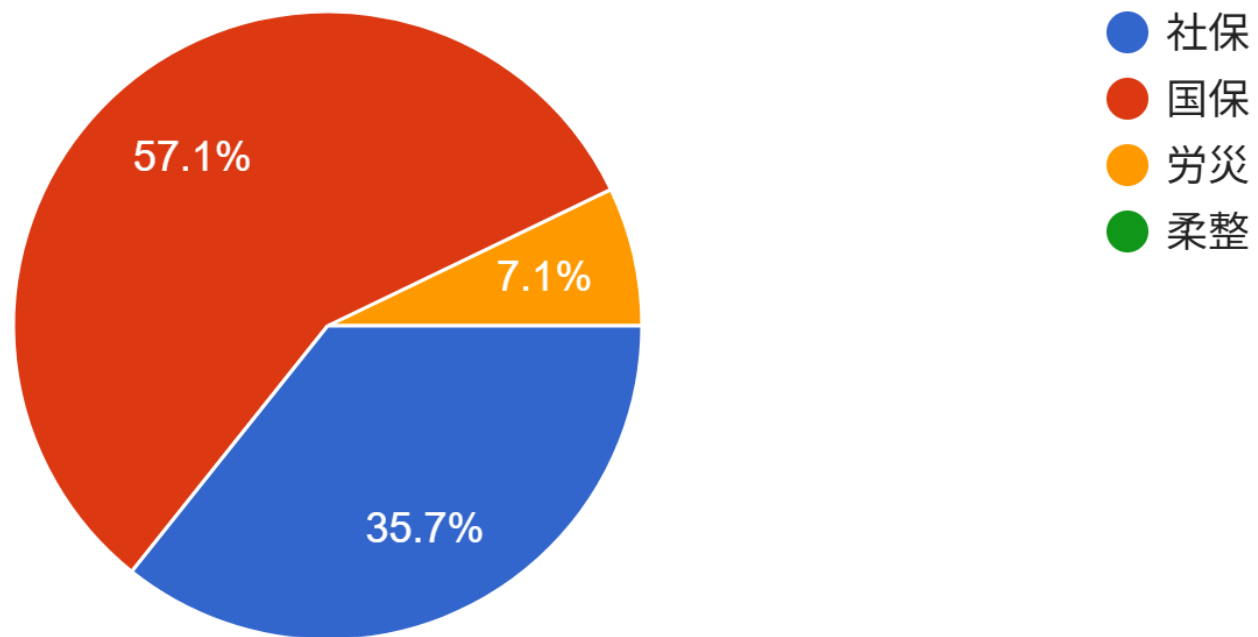
- ・末梢神経ラジオ波焼灼療法および体外衝撃波疼痛治療術において、十分な保存的治療の実施が確認できない症例が増加していること
- ・末梢神経ラジオ波焼灼療法の施行適否を判断するためのテストブロックを、通常の神経ブロックとして算定している例や、神経同定目的の超音波検査を別途算定している医療機関があること
- ・D250 平衡機能検査について、整形外科疾患での算定が増加しており、算定可否の判断に苦慮する事例があること

## 【調査内容】

1. 末梢神経ラジオ波焼灼療法実施までの保存的治療期間およびテストブロックの位置付け
2. 体外衝撃波疼痛治療術実施までの適切な保存的治療実施期間
3. D250 平衡機能検査：整形外科疾患で算定可能と考えられる疾患・適応について

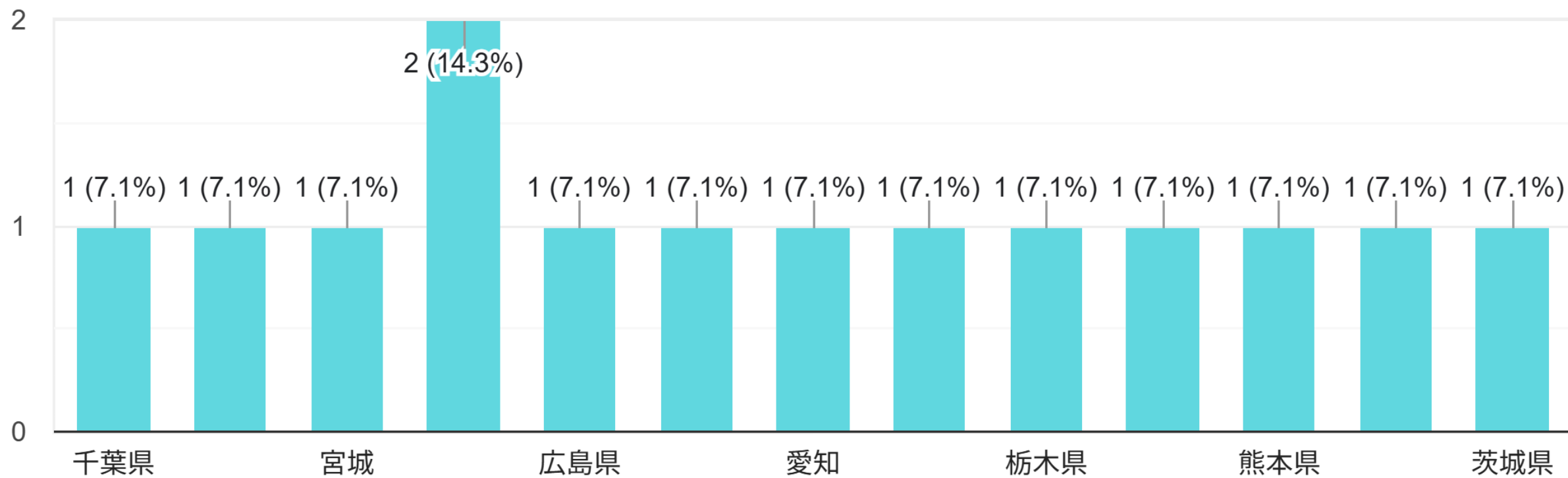
## 委員の種別

14 件の回答



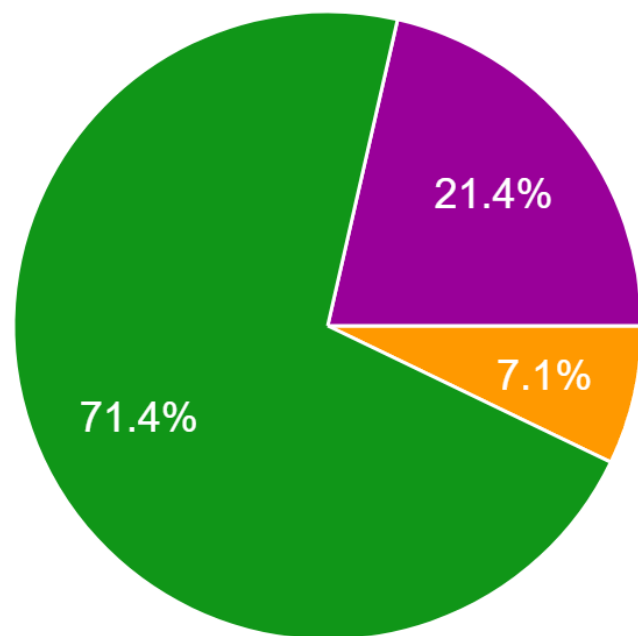
# 都道府県

14 件の回答



# 年齢

14 件の回答



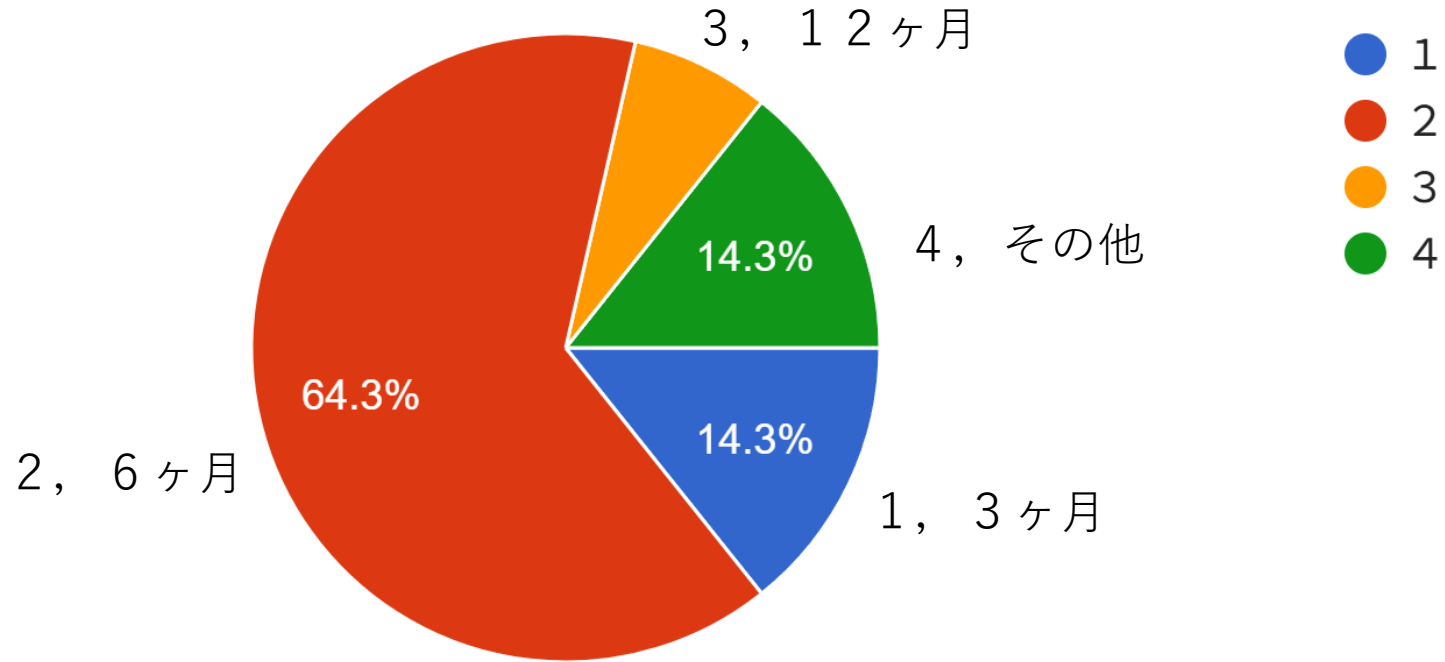
- 30歳～
- 40歳～
- 50歳～
- 60歳～
- 70歳～

問1 末梢神経ラジオ波焼灼療法実施までの保存的加療の期間は？

- 1, 3ヶ月
- 2, 6ヶ月
- 3, 12ヶ月
- 4, その他

## ラジオ波焼灼 問1

14件の回答

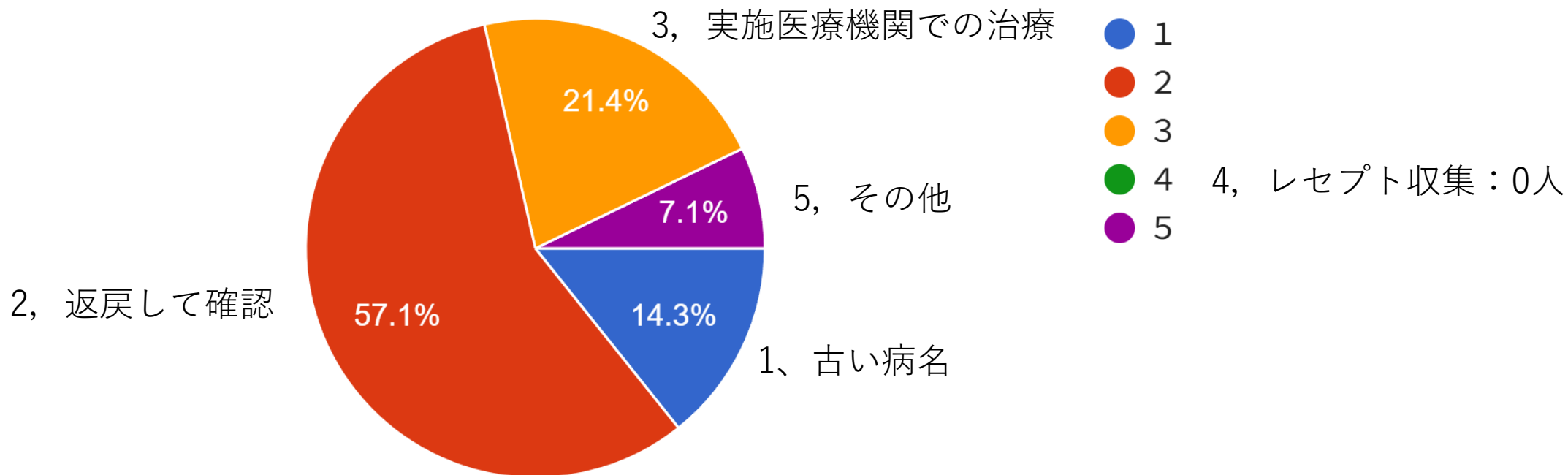


## ラジオ波焼灼 問2

14件の回答

問2 実施医療機関での保存的治療が確認できない場合認めるか？

- 1, 治療開始日が古ければ（概ね6ヶ月前以上）認める。
- 2, 返戻して確認するが、適当なことを書いてあれば認める。
- 3, 実施医療機関での保存的加療が確認できなければ査定する。
- 4, 事務方に患者の関連レセプトを収集を依頼し、判断する。
- 5, その他



問3 ラジオ波焼灼療法の際のテストブロックを認めるか？

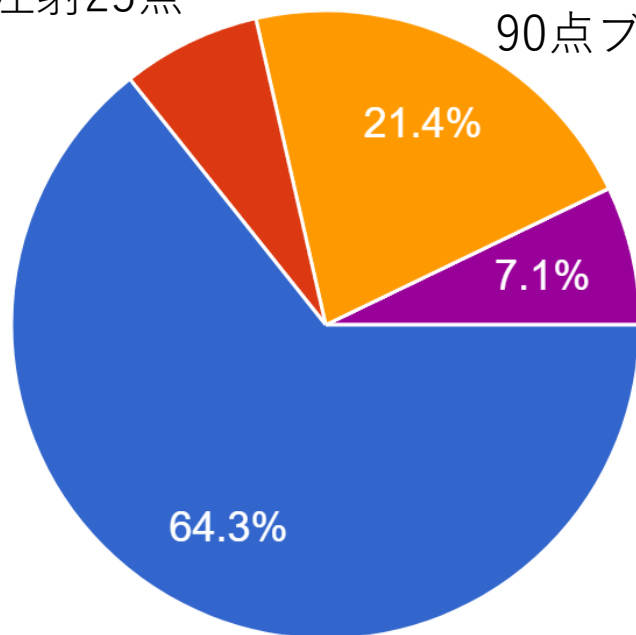
- 1, 手技料は認めない、局所麻酔薬の費用のみ認める。
- 2, 神経幹内注射25点に査定する。
- 3, 大腿神経ブロック90点で認める。
- 4, トリガーポイント注射70点で認める。
- 5, 全ての認めない

ラジオ波焼灼 問3

14件の回答

2, 神経幹内注射25点

90点ブロック



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

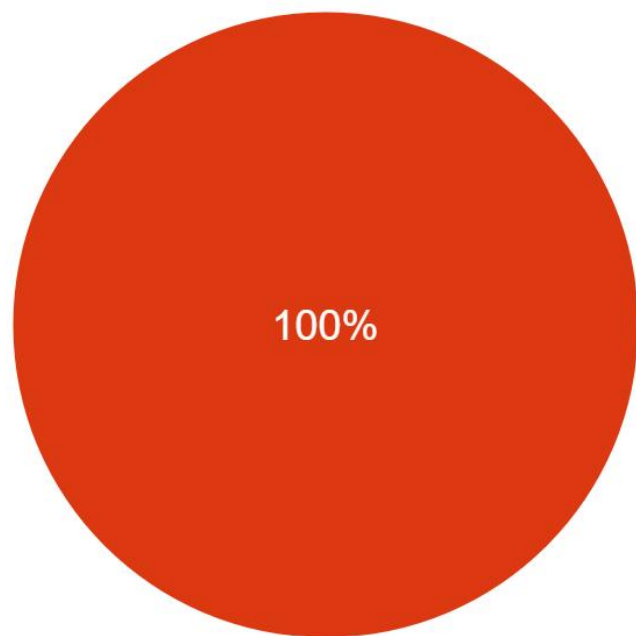
トリガーポイント 0名

1, 手技料は認めない

問3 ラジオ波焼灼療法の際の神経同定のための超音波検査を認めるか？

ラジオ波焼灼 問3 超音波検査

14件の回答



- 認める
- 認めない

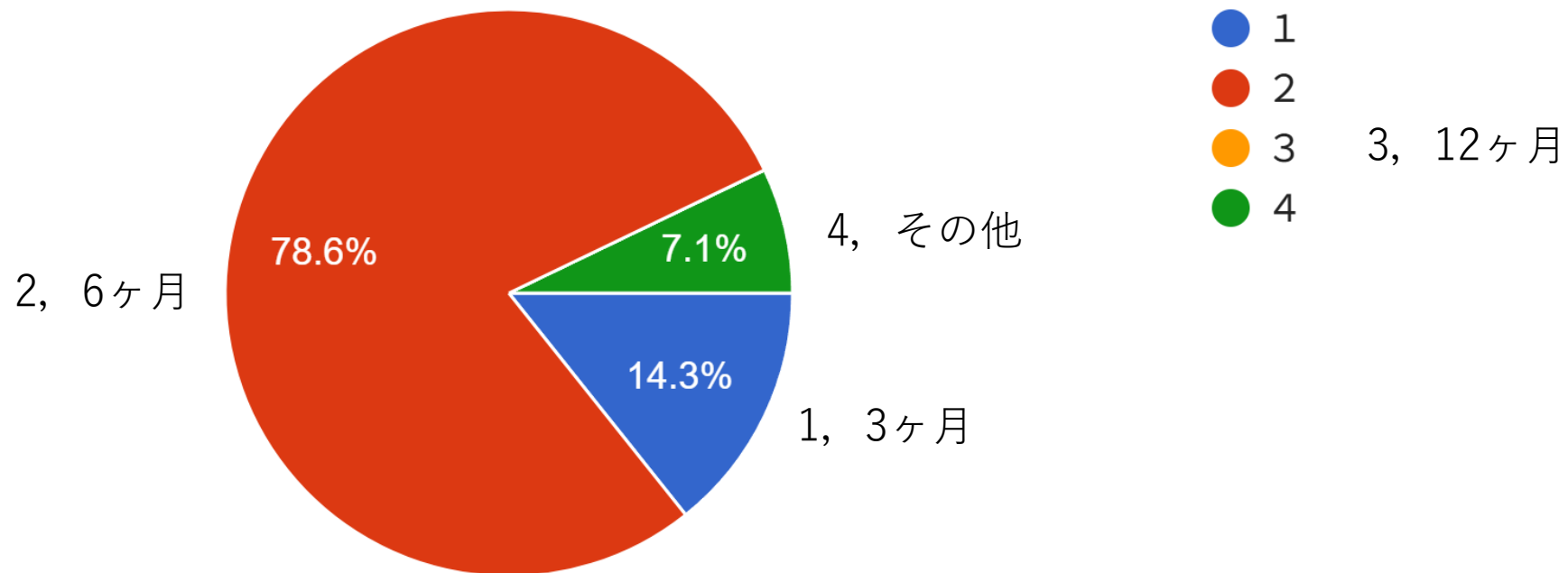
その他を選択した場合の記述：3件の回答

- 1, 治療期間ではなく、変形の程度、QOLの低下を基準に判断する。  
但し最低3か月以上の保存両方を一つの基準とする。
- 2, 検査は認めない
- 3, 問3の「大腿神経ブロック」を認めるのは、適切な病名ないし詳記がある場合。

体外衝撃波 問1  
14件の回答

問1 体外衝撃波疼痛治療術までの保存的加療の期間は？

- 1, 3ヶ月
- 2, 6ヶ月
- 3, 12ヶ月
- 4, その他

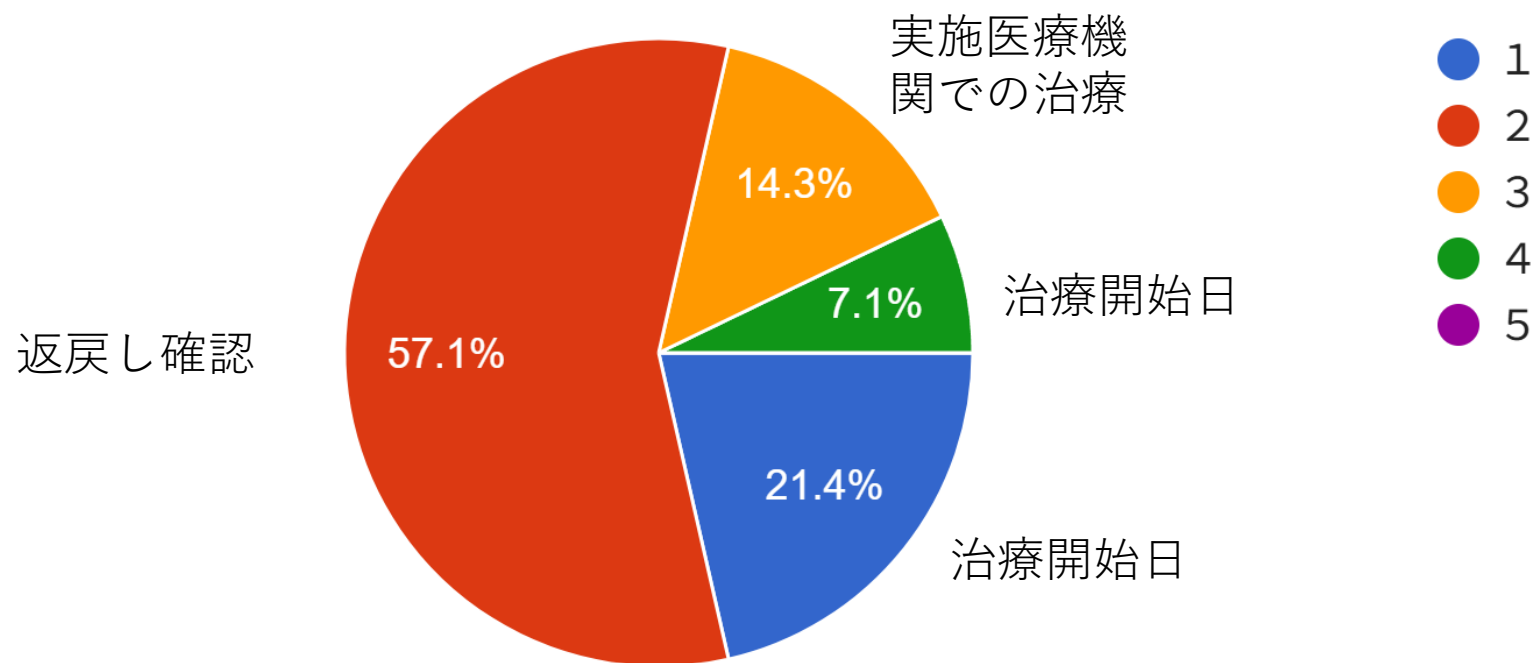


## 体外衝撃波 問2

14件の回答

問2 実施医療機関での保存的治療が確認できない場合認めるか？

- 1, 治療開始日が古ければ（概ね6ヶ月前以上）認める。
- 2, 返戻して確認するが、適当なことを書いてあれば認める。
- 3, 実施医療機関での保存的加療が確認できなければ査定する。
- 4, 事務方に患者の関連レセプトを収集を依頼し、判断する。
- 5, その他



## 体外衝撃波 問3

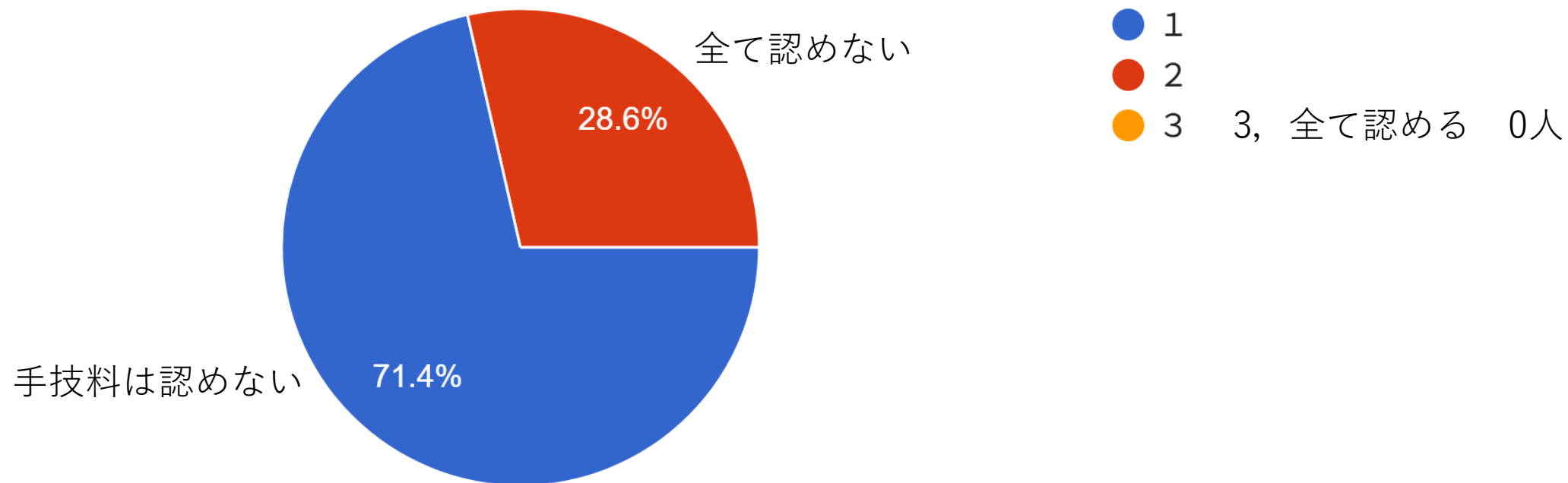
14件の回答

3 体外衝撃波疼痛治療術実施時の局所麻酔は認めるか？

1, 手技料は認めない、局所麻酔薬の費用のみ認める。

2, 全て認めない。

3, 全て認める。

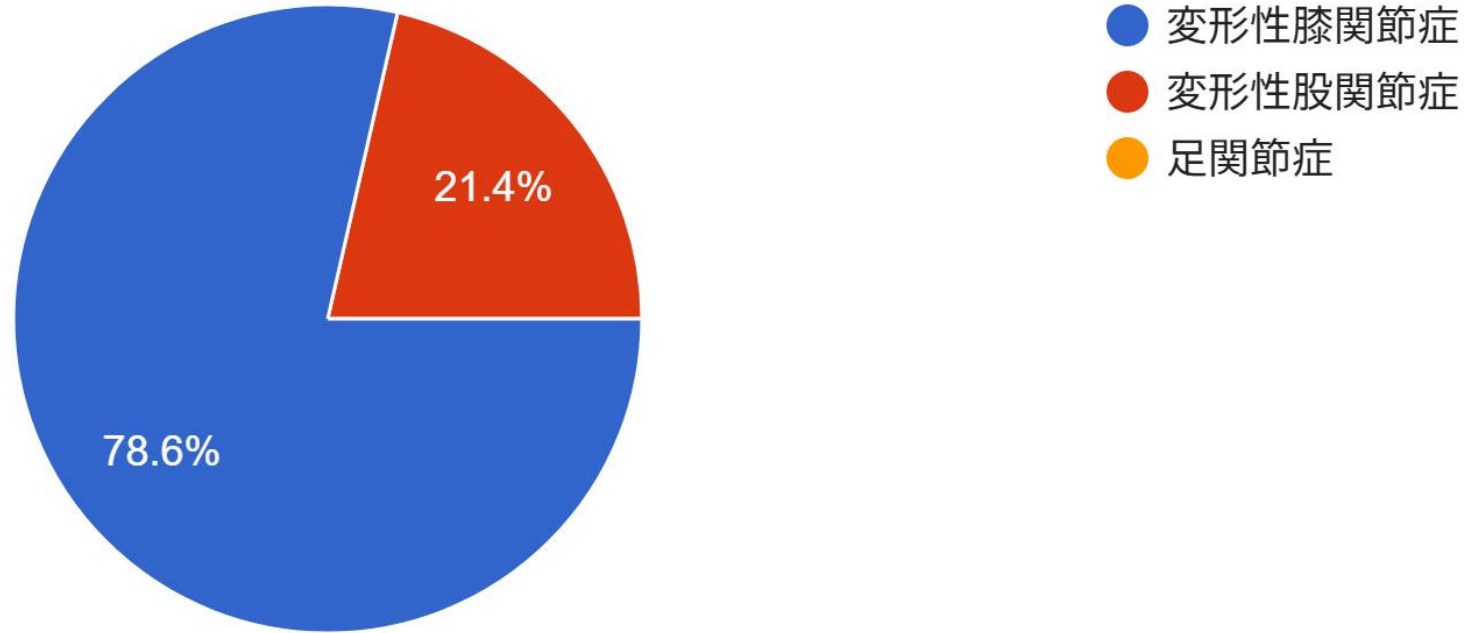


その他を選択した場合の記述1件の回答

検査は認めない

## D 2 5 0 平衡機能検査 整形外科疾患で算定可能な疾患は？

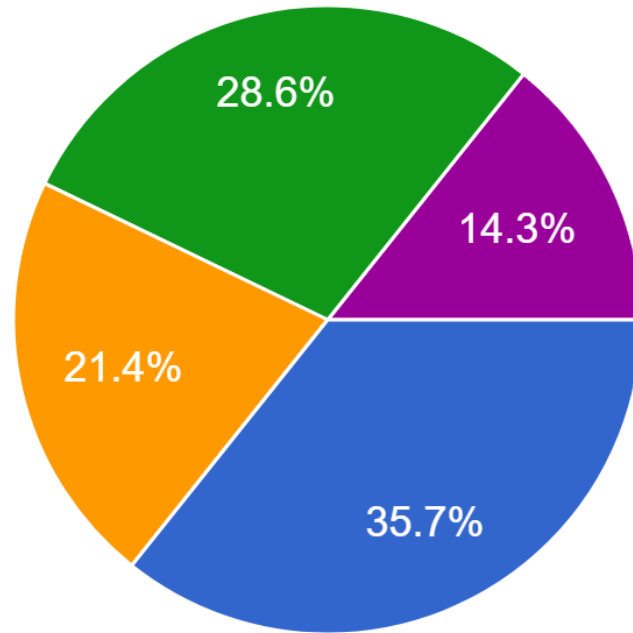
14 件の回答



# D 2 5 0 平衡機能検査 整形外科疾患で算定可能な疾患は？

## 下肢変形

14 件の回答

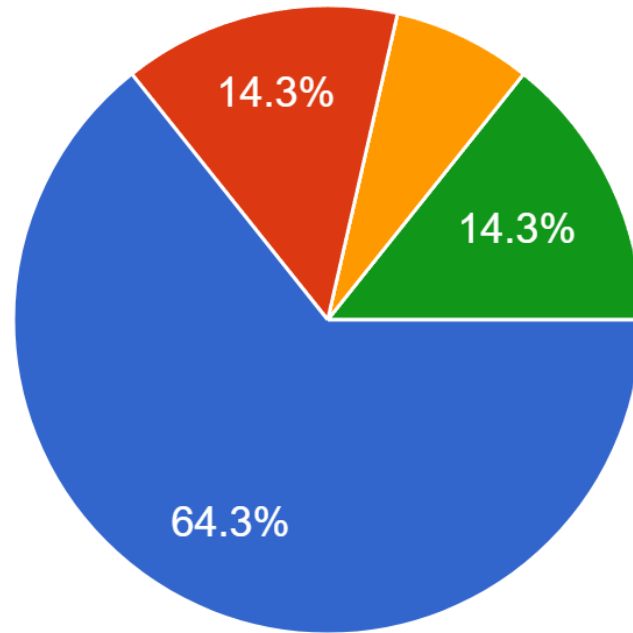


- O脚 (内反膝)
- X脚 (外反膝)
- 下肢長差
- 大腿骨・脛骨変形
- 選択肢 5

D 2 5 0 平衡機能検査 整形外科疾患で算定可な疾患は？

14 件の回答

股関節疾患

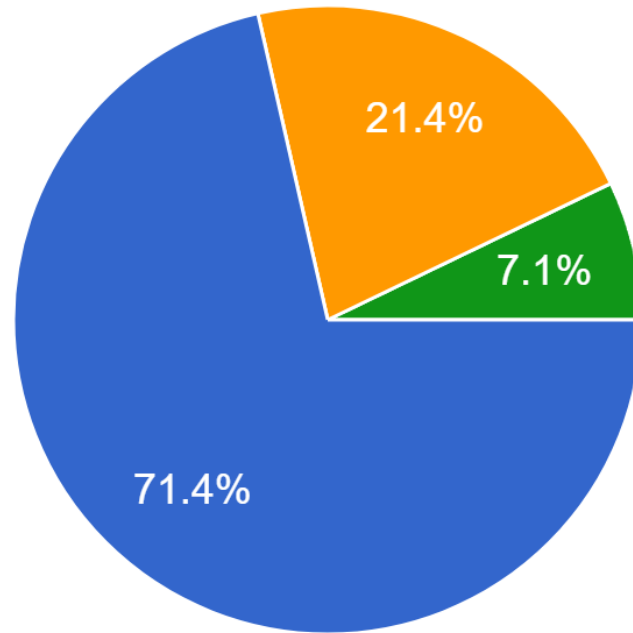


- 先天性股関節脱臼後遺症
- 寛骨臼形成不全
- 大腿骨頭壊死
- 股関節外転筋障害

D 2 5 0 平衡機能検査 整形外科疾患で算定可能な疾患は？

脳性まひ 脊椎疾患

14 件の回答

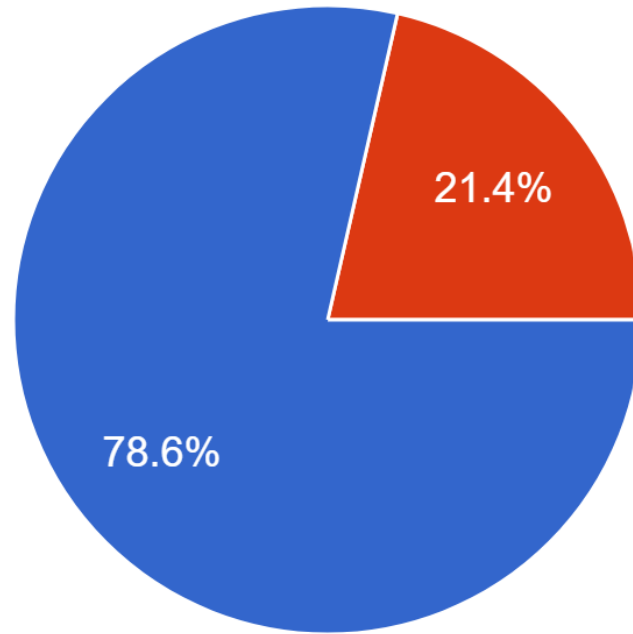


- 脳性麻痺
- 腰部脊柱管狭窄症
- 脊髄損傷
- 脊柱変形

D 2 5 0 平衡機能検査 整形外科疾患で算定可能な疾患は？

スポーツ整形

14 件の回答

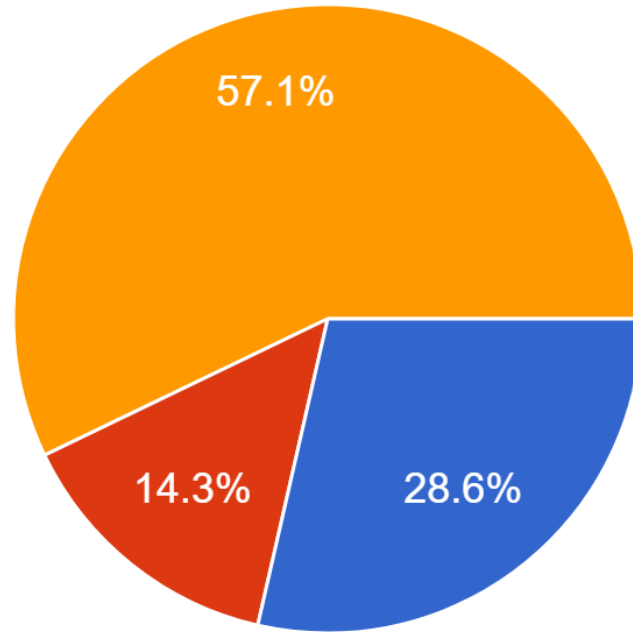


- ACL損傷後
- ランニング障害
- シンスプリント
- 足底腱膜炎

D 2 5 0 平衡機能検査 整形外科疾患で算定可能な疾患は？

足部疾患

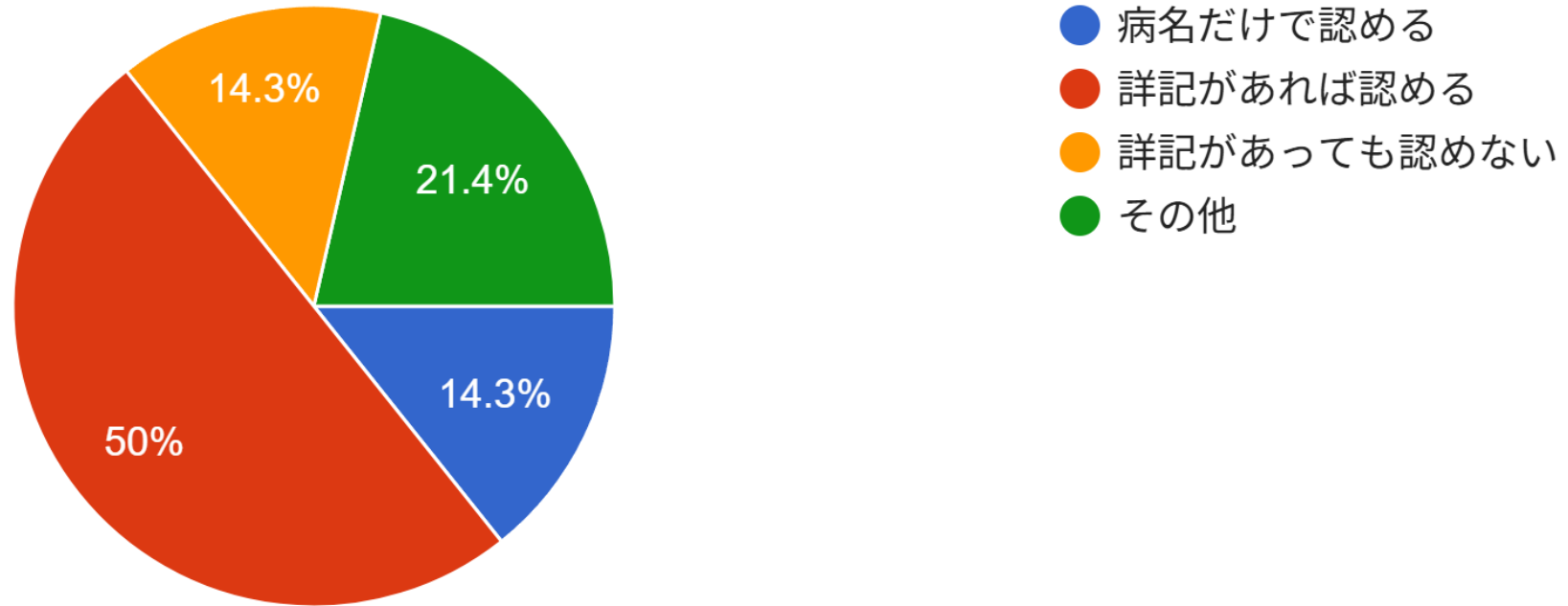
14 件の回答



- 扁平足
- 外反母趾
- 後脛骨筋機能不全

D 2 5 0 平衡機能検査 病名だけで認めるか、詳記が必要か、詳記があっても認めないか

14件の回答



## その他の記述：6件の回答

1, 下肢荷重検査は原則として人工関節、関節固定術、脚長差矯正等の下肢手術施行時の検査として可否を判定している。病名はあまり気にしていない。スポーツ関連に関しては適応はないが回答しないと終わらないのでやむなく回答している

2, 人工関節置換術の前後のみ

3, 平衡機能検査、どれかにチェックを入れないと送信できないので全てチェックを入れましたが、必ずしも認めるわけではありません。やはり詳記が必要と思います。

4, 正直なところ 平衡機能検査に対する知識が乏しくわからないことが多いです。

5, 手術に際して、術前術後の下肢加重線（アライメント）の変化が想定される場合は認める。  
手術を想定していない場合は認めない。

6, 人工関節または骨切り術の術前術後のみ認める